

毛並みが悪くなったり、お散歩を  
したがないのは、甲状腺の病気が  
隠れているからかもしれません。



犬の甲状腺機能低下症の検査をご紹介します。

## 犬の甲状腺機能低下症検査

### 総サイロキシン( $T_4$ )・遊離サイロキシン( $FT_4$ )検査

#### どんな検査ですか？

中年以降の犬に比較的好くみられる甲状腺機能低下症という病気は、一般的な身体検査、血液検査に加えて、確定診断には甲状腺から分泌されるホルモンの血中の量を調べる検査が必要で、主に $T_4$ 、 $FT_4$ というホルモンを測定します。

このホルモンの分泌量が減少し、様々な症状が引き起こされます。また、必要に応じて甲状腺刺激ホルモン(cTSH)を測定することもあります。

## この検査は何に役立つの？

早期発見につながり、薬によりホルモンを補う治療を早期にはじめることができます。

この投薬により良好な状態を長期にわたり保つことが可能になります。

## 検査は痛くないの？

少しの採血で、犬の体にほとんど負担がかかりません。



## 甲状腺機能低下症はどんな病気？

- 主に中年以降の犬に見られる内分泌疾患です。どんな犬種でも発生しますが、中型～大型犬に多い傾向があります。
- 原因は自己免疫が関連していると考えられており、甲状腺から分泌されるサイロキシンというホルモンの量が減少することで発症します。
- 体の機能を活発にする作用をもつ甲状腺ホルモンが不足することで様々な症状を示します。
  - 脱毛・毛並みが悪くなる
  - 元気がなくなる
  - 運動を嫌がる
  - 寒がりになる、など

